

創立八十五周年・京都初春公演四十周年記念

前進座初春特別公演



人情嘶文七元結

原作：三遊亭圓朝
脚色：平田兼三
演出：香川良成

南北朝時代頃に成立したといわれている「義経記」以来、数々の源義経伝説が日本人の心の中にいき継けてきました。今回の『雪月花源氏旗挙』は、その義経の幼少期、牛若丸を名乗っていた頃に取材し、歌舞伎の醍醐味をたっぷりとお目にかけます。

【あらすじ】 いまから八百年ほど昔。世の中は源家と平家に別れて争っています。源義朝の妻、常盤御前（國太郎）はわが子牛若丸を連れて逃げているところを、捕えられてしまします。しかし、平宗清（芳三郎）は、情けをかけて母子を逃がしてやるのでした。（伏見の里 雪の場）

何年か後、京の都で謎の美少年が夜毎五条橋に現われ、早業で人の刀を奪い取るとの噂が流れます。実はこの少年こそ、牛若丸（本村）。噂を聞きつけた、武藏坊弁慶（渡会）は、懲らしめる為に牛若丸に斬りかかりますが、降参し、二人は主従となります。（五条橋 月の場）

その後も、鞍馬山で剣術の稽古に励んでいた牛若丸は、大天狗僧正坊（矢之輔）から、平家に打ち勝つための兵法書の巻を与えられます。牛若丸は、その一巻を手に弁慶を伴い、勇躍して陸奥へと旅立つのでした。（鞍馬山 花の場）

中村梅之助 一周忌追善



山崎辰三郎

嵐市太郎

今井鞠子

上滝啓太郎

早瀬栄之丞

中嶋宏太郎

嵐芳三郎

松涛喜八郎

柳生啓介



京都府商工団体連合会

会長 久保田憲一

激動の政治情勢が繰り広げられていますが、キーワードは『一点共闘』ではないでしょうか。演劇人

中小企業者は、生きる環境こそ違えども世の中の役に立ちたいという思いは共通です。牛若丸のように機敏に生き抜き、長兵衛のように人情に厚い民商でありたいのですね。

今年の前進座観劇は、場所を移して先斗町歌舞練場です。コンパクトな劇場ですから、より一層役者さんの息遣いを感じていただけると思います。皆様のご来場を賜りますようお願い申し上げます。

【あらすじ】 左官の長兵衛（矢之輔）は、腕はいいがバクチと酒にまみれて稼業はほったらかし。女房お兼（國太郎）との間には喧嘩が絶えません。娘お久（有田）は、そんな不和に心を痛めて、自ら吉原の遊女屋佐野槌に身を売つて金を稼ぎます。娘の孝行に打たれた長兵衛は、すっかり目が覚め、懸命に働いて一年のうちに迎えにくると誓い、佐野槌から五十両を借り受けます。その帰り道、身投げしようとしている若い男文七（臣弥）を助けるのですが……。

雪月花源氏旗挙

作：小池章太郎 演出：香川良成
—牛若丸— 紅葉の鞍馬山

月の五条橋
月の伏見
紅葉の鞍馬山



先斗町歌舞練場

京都市中京区先斗町三条下ル

- ◎市バス5・17・205系統「河原町三条」下車 徒歩5分
- ◎京阪「三条駅」下車 6番出口より徒歩5分
- ◎阪急「河原町駅」下車 1番出口より徒歩10分